

## 「コロナ禍の生活で気付いたこと」

校長 丸橋 覚

新年度が始まり、2週間ほどが経ちました。始業式、入学式、創立記念式典と年度当初の慌ただしい日々が一段落し、今週から二者面談週間が始まり、日々の学校活動が順調に進み始めたところ  
です。

昨年の冬から、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、その影響は丸一年を過ぎた今でも止まるところなく続いており、臨時休校や分散登校、学校行事や大会・発表会の中止など、学校教育におけるほとんどの教育活動が制限され、不自由な生活と不安の中での生活を余儀なくされてきました。いまだ出口の見えない日々が続いていますが、こうした制限の多いコロナ禍の生活に翻弄された一方で、コロナ禍の生活を通して新たに学んだこと・気づいたこともありました。私が印象に残ったことが3つあります。

1つは、「人と人とのつながりの大切さ」です。

私たちの日々の生活の中では、日頃、何気なく他者とのコミュニケーションをとっていますが、この何気ないコミュニケーションが人と人をつなぐ重要な役割を担っていることを再確認することができたように思います。他者とつながりにくいコロナ禍の中でこそ、自分から積極的に挨拶をし、自分から積極的に話しかけ、他者との対話を心がけることが重要であると感じました。

もう1つは、「自分の行動は自分で管理すること」です。

新型コロナウイルス感染症の影響で、授業や補習などの学習環境が制限されました。こうした厳しい状況の中でも大学入試に向けて飛躍的に成績を伸ばし、志望する大学合格を勝ち取った人もいます。臨時休校などで自分に任された時間が多い分、きちんと計画を立てて自分の時間をコントロールできた人が成果を出しているのです。先輩や先生方のアドバイスを参考にすることは重要ですが、人に言われて行動しているようではダメだということです。当たり前のことですが、自分の行動は自分で管理することが重要です。自分の行動を管理できる人が、結果的に大きな成果を掴んでいるように思います。主体的に行動できる人を目指し、来春の大学合格を掴んでください。

そして3つ目は、「授業でできることと個人でできることが明確になった」ということです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、PCやWi-Fi環境など、ICTの整備が一層加速され、動画やオンラインでの学習環境が急ピッチに整備されました。今やYouTubeや動画配信で説明を聞くこともできるし、リモートで他者と会話することも可能となりました。学校に登校して授業を受ける意義を改めて考えてみると、友と共に学んでいるというナマ体験の重要性に改めて気付かされます。自習室で勉強したほうが捗るのと同じです。また、先生のナマの説明を聞けることに加えて、友と話し合うことにより自分の考えに対するフィードバックを受けることができるということも大きいと思います。授業では一人ひとりが積極的に発言する機会を持ち、相手の意見を尊重し、自分の意見をぶつけることが重要であり、結果的に互いに成長できるように思います。授業では、他者の意見を尊重し、積極的に発言してほしいと思います。生徒諸君の健闘を期待します。